◇看護学科　主要科目の特長

科目	特長
形態機能論	形態機能論は人間の体のつくりとしくみ、体の中で起こっている現象を学ぶ学問です。骨 筋肉系、神経系、感覚器系、消化器系、循環器系、呼吸器系を、免疫系、泌尿器系、血液、内分泌系,生殖器系などの人体の正常な構造と機能がもとになって、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と患者の治療・看護が行われます。「人体のしくみ」に触れ、「そうなのか」「なるほど」と実感し人体の巧みさを知り、自分自身の体に関する身近な学問であるので興味をもって学習すること。
免疫・微生物学	微生物はあまりにも微細であるために、つい私共はその存在を忘れて終い易い。しかし実際の私共をとり囲む環境は、微生物の洪水の世界と云ってもよい。その中には、近年新興感染症としてエイズ（AIDS）・SARS・鳥インフルエンザやプリオン病、再興感染症として結核・マラリア・日和見感染症などがある。感染症が人類によって征服されたと考えるのは大きな誤りであり、種々の病原体が形と機能を変えつつ、人類の脅威となっている事実を注目する必要がある。本講義では、生体の防御（免疫）機能の解説を含め、看護・保健の専門職者に必要とされる病原微生物に関する知識を教授する。
看護学概論	看護学概論は看護学の土台である基礎看護学に位置し、看護学全体の基本的内容を含む。看護に関する過去と現在、および未来の見通しを伝え、看護学の本質を理解し看護学の豊かさや奥深さをイメージさせ、関心を高め各領域の看護学への学習意欲を鼓舞させるための科目である。本授業のねらいは看護の基本的概念（人間、健康、環境、看護）の理解を踏まえ、看護学の知識体系（理論）の概念をつかみ、専門職としての看護の役割と機能について理解する。看護サービスの利用者である人間（対象）について成長、発達、ライフサイクルの側面、生活主体としての側面から考察し、ニードの充足と自立、適応に焦点を当てた看護活動について理解する。看護の基本は患者の苦痛を軽減し、安全・安楽・自立を確保し、環境を整え安寧を保障することであり、生命・人間の尊厳や基本的人権を基盤に看護活動を展開することを認識する。患者の権利をめぐる歴史的変遷や権利擁護の重要性について理解すると共に、生命倫理上の諸課題について考察する。

◇看護学科　主要科目の特長

科目	特長
看護理論	看護の本質とは、看護を「看護」として成り立たせている独自の性質です。看護の本質を自ら探究してきた人々が看護理論家であり、看護理論家たちは「看護って何だろう」と考えてきた人達です。本授業は看護理論家が看護をどのように見ているかを知ることで看護の質を向上させることがねらいです。看護理論をわかりやすく学ぶための枠組みに沿って授業を進めていきます。例えば、「看護理論家は理論を書くときいったい何を材料にしたのだろう」「看護理論の中の骨格部分に何が書かれているか」「「看護で中心的な概念、つまり人間・環境（社会）・健康・看護をどのように捉えているのか」など考えていきます。また、看護がart であり、science であると位置づけられている根拠を分析してみることにより、caring としての看護の意味をより深く理解する。さらに、看護過程の中で看護理論がどのように活用されているかを知り、看護実践と結びついた理論について考察する。
ヘルスアセスメント	「看護の対象となる人の健康状態を理解すること」をねらいとして,「生活者としての人のとらえ方」「身体診査の技術」を習得する.
基礎看護学実習Ⅰ	人々が生活する環境について理解し、健康についてどのように認識し、生活しているのかについて見学・インタビューなどから理解する。さらに自らを振り返り、看護職者としての支援のあり方についても考察する。そして人間・健康・環境・看護の関連について考えることができる能力の習得をはかる。
基礎ゼミ	入学後の環境に適応するために、大学生活を有意義に送り、積極的に学習ができる様に、大学生活の心得、学習方法、看護専門職としての学問追求に必要な文献購読、ノートテーキング、レポートの書き方、グループワークの方法、コミュニケーション、プレゼンテーションの方法と実際等についての基礎的な知識と演習である。
保健統計学	本授業は、データ解析で用いる基本的な手法を習得する統計習得コースであり、大きく2 つの部分より構成する。授業全体を通して、授業計画に基づき、幅広く講義と演習の繰り返しを実施します。 ①保健医療福祉統計のための記述統計学入門 標本データの分布を図示し、その特徴を各種の統計量で要約するための手法について学習する。 ②保健医療福祉統計のための推測統計学入門 母集団からの無作為標本によって得られる標本統計量の分布と、その分布に基づく統計的推定、検定の基本的な初歩の考え方について学習する。

◇看護学科　主要科目の特長

科目	特長
保健医療福祉行政論	保健福祉サービスの役割や基本的な制度枠組について解説するとともに，保健福祉制度の運営や政策過程に関する理解を深める。日本の保健福祉行政の今日的動向とシステムに内在する問題点を明らかにし，保健と福祉の連携やサービス供給の多元化，急速に進む少子高齢化への対応を軸に展開されている制度改革の動向について検討する。看護師国家試験出題基準「社会保障制度と生活者の健康」に対応する科目であり，とりわけ「目標2」に関連する領域の受験対策を意識した講義を実施する。また，保健師国家試験出題基準「保健医療福祉行政論」の受験対策も併せて行う。
公衆衛生学(疫学含)	公衆衛生学とは、組織的な共同社会の努力を通じて、人々を疾病から守り、寿命を延ばし、身体的・精神的健康と能力の増進を図る科学と技術である。本講座では、公衆衛生の内容は、主に社会で生活するすべての人々の健康と能力を保持・増進するための基礎知識、疫学と健康指標に基づく、新しい健康づくりの支援、医療の動向と看護サービスの展開、公衆衛生と国際化、新しい感染症と危機管理とし、疫学の内容は疫学に関する知識と実践的な演習及び疫学研究について学習する。地域保健の展開等は、地域看護学の各領域科目に譲ることとする。
薬理学	薬理学では、看護師や保健師が遭遇する医薬品と患者の病態との相互作用についての知識を養い、適切な医薬品の使用の大切さ学んで欲しい。医薬品は化学物質であり、疾患の治癒や予防に期待される作用と不必要な副作用や生命に関わる有害作用を示すことがある。もちろん期待される作用に付随している副作用もあるが、副作用や有害作用は適切な使用・適応を誤ったことにより生じる。これらは医療過誤として報道されていることは、周知の事である。限られた時間であるが、医薬品の体内での動態や作用発現機序について先ず総論を修得して欲しい。各論では全ての医薬品を解説する事は不可能であり、免疫系・抗レルギー・抗炎症薬、抗感染症薬、抗がん薬、末梢組織・器官性疾患治療薬について講述する。
臨床病理病態学Ⅰ・Ⅱ （内科系）	本講義では、土台となる形態機能の知識を簡単にレビューしつつ、内科疾患を8領域に大別して講義する。①呼吸器疾患 ②循環器疾患　③消化器疾患　④内分泌・代謝疾患　⑤腎・尿路疾患⑥神経・筋疾患　⑦感染症 ⑧免疫異常の疾患を講義の範囲とする。看護ケアを実施する上で必要とする、各領域毎の疾患の概念・成り立ち・病態・治療の基本方針を理解できるように講義する。
臨床病理病態学Ⅲ （外科系）	治療手段が手術となる外科系疾患について、疾病の成り立ちと病態の理解を基礎として講義を行う。前半では総論的事項、創傷治癒や蘇生術などについてのべ、後半では各論一消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、内分泌・代謝疾患、整形外科的疾患を講義する。本講義を通じて疾患の病態や手術概念の基本を理解すると共に、外科的治療の対象となる疾患に関する知識を深めるように教授する。

◇看護学科　主要科目の特長

科目	特長
臨床病理病態学Ⅳ （周産期・小児科系）	わが国の周産期・小児医療は先端科学技術の応用により目ざましい進歩を遂げてきた。したがって、これらの医療現場では、看護領域においても高度な知識と適切な医療技術が要求される。本講義では、将来大卒看護師として高度な小児医療にも対応できることを目標に充実した内容としたい。胎児、新生児を含む成長過程にある患児の発達生理、病理学的知識に基づいて、病態を明らかにしそれぞれにケア、治療を解説する。
看護技術論Ⅰ （生活技術援助）	学生は、看護の対象者に看護を提供するために必要な看護行為に共通する援助技術と健康的な日常生活行動を促進する援助技術についての基礎的知識・基本的技術および看護者としての態度について学ぶ。学生は、看護実践に必要な基本的看護技術全般について学習する。詳細な目標はその都度提示する。
看護技術論Ⅱ （診療技術援助）	健康上の問題により生じる治療や検査を受ける対象を理解し、診療の補助業務における知識・技術を身につけ、安全かつ正確に与薬及び検査が提供できる能力を身につける。特に、対象者の身体に侵襲を伴うケアについて、その適応と意義・目的、原理・原則、安全・安楽への配慮などについて基本的な知識と技術を修得する。さらに看護場面における教育・指導技術を通して、対象の健康学習、成長を支援するための援助の方法を理解する。
基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰを踏まえ、看護の対象である患者の全体像を捉え、その人に応じた基本的な日常生活援助ができる。又、看護過程の展開を通じて、対象者に応じた援助的関係を形成・発展させる能力を身に付けると共に、科学的かつ論理的な問題解決能力を養う。
成人看護学概論	成人看護の対象となる人の特徴および健康課題について教授する。また成人期の患者の看護に有用な看護理論や概念について学習させ、成人看護の具体的な展開方法を教授する。
老年看護学概論	高齢者を生物学的、社会学的な変化の中でとらえ、老いて生きる人々の生活とそれをとりまく社会の視点で高齢者の多様性を全人的に理解し、歳を重ねること（エイジング〈加齢〉）に伴う生活の変化や、老年者に特有な症候・疾患・障害をもつ高齢者とその家族の望ましい健康生活を支える看護を実践していくための老年看護の基本的概念・理論・技法について習得する。（具体的な内容は授業計画に示す通りである）

◇看護学科　主要科目の特長

科目	特長
小児看護学概論	さまざまな健康状態やレベルにある、小児と家族の看護を実践するための、知識や思考過程、技術を習得する。事例をとおして、理論や科学的根拠に基づいたアセスメント能力を養い、小児と家族のQOL、症状の緩和、他職種や地域との連携について学習する。
母性看護学概論	母性看護学は、新しい家族の誕生期にある人々の健康生活を看護するために必要な基礎的な知識と技術を主題とする科目である。本教科は、母性看護学の対象となる女性、母性、家族、地域社会等に関する理論的理解、「性と生殖に関する健康」の視点、さらに「新しい家族の誕生期に於いて、さまざまに役割変化を遂げる家族の発達」の視点、および母性のライフサイクル各期の保健の維持向上と健康課題等に焦点をおいて開講する。
精神看護学概論	精神看護の対象は、精神を病む人のみならず、成長発達過程のあらゆる段階の人々を含んでいる。社会生活における精神の健康と危機的状況及びそれらに影響を与える様々な要因を幅広い視点を持って理解し、健全な精神発達への援助を思考するために必要な知識を習得する。
在宅看護概論	在宅で生活している療養者とその家族の健康生活を支援するための援助過程と援助方法及び在宅看護に必要な看護技術を教授する。具体的には、在宅における看護技術の特性に基づき、事例を通して看護過程の展開や実践場面について演習を取り入れ、関係職種との連携を意識しつつ安全に提供できるように教授する。
公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護の基本理念とその目標、地域における公衆衛生看護活動の基本的知識及び考え方とその支援について学ぶ内容とする。地域住民の健康体験を尊重し、住民主体・住民参加を重視する看護援助および支援の方法について教授する。保健行政の沿革と当面の課題及び現状を理解し地域における保健予防活動の概要と活動の場について学習する。
成人看護援助論Ⅰ （生命危機状態にある人）	急性期（生命危機の状態、および周手術期）にある人の心理・社会・身体的特徴を把握し、生命の維持、二次障害の予防、全身状態の改善およびQOL向上にむけての具体的な援助方法を教授する。また、主な手術療法についての術前・術中・術後の看護を具体的な事例を示しながら看護過程の展開を教授する。
成人看護援助論Ⅱ	慢性疾患により常態の維持・増進が困難な状況にある成人とその家族について教授する。また機能障害による生活と生命への影響を中心に、成人自身が日常生活を再構築することに必要な看護を実践するための知識・技術・態度を教授する。

◇看護学科　主要科目の特長

科目	特長
老年看護援助論	老年期にある人の健康保持・増進のための援助、健康障害がある老人の看護について教授する。健康障害がある老人の看護過程展開の方法を理解し、老年期の特徴を踏まえた基本的な看護技術を習得させる。
小児看護援助論	さまざまな健康状態やレベルにある、小児と家族の看護を実践するための、知識や思考過程、技術を習得する。事例をとおして、理論や科学的根拠に基づいたアセスメント能力を養い、小児と家族のQOL、症状の緩和、他職種や地域との連携について学習する。
母性看護援助論	母性の発達を促進させる積極的な看護活動を中心に学習する。周産期にある母子とその家族に対し、健康生活の特性を講じ、対象となる人々の理解と適切な看護援助が考えられる能力を養う。又、具体的な事例をとおしてアセスメント能力を養い、母性看護を必要とする対象の看護問題・課題への理解と必要な看護技術の習得を深める。
精神看護援助論	患者・看護者の関係形成に必要なコミュニケーション技術や自己洞察を養い、精神の健康に障害や問題を持つ人の援助方法について、その理論と具体的な援助方法を学習する。さらに、事例をもとに、精神の健康の危機的状況についてアセスメントし、ニードに沿った看護計画の展開方法を学習する。
在宅看護援助論	在宅で生活している療養者とその家族の健康生活を支援するための援助過程と援助方法及び在宅看護に必要な看護技術を教授する。具体的には、在宅における看護技術の特性に基づき、事例を通して看護過程の展開や実践場面について演習を取り入れ、関係職種との連携を意識しつつ安全に提供できるように教授する。
学校保健概論	地域保健活動の場としての学校保健について学習する。学校保健の領域構造を理解し、学校保健活動推進の中核的役割を果たす養護教諭の役割と学校保健にかかわる校外の専門職の役割と連携について学習する。子どもの現代的課題への対応、生涯を通じて生きる力を育むための健康教育、健康診断、保健管理・保健教育、学校安全と危機管理、特別支援教育の現状、学校保健委員会活動等、地域保健と学校保健の連携に必要な内容である。

◇看護学科　主要科目の特長

科目	特長
看護管理学	個人・家族・地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供し、医療チームの一員として他職種と有機的にコラボレーションを行い、安全・安楽なケア提供を行う看護管理能力について教授する。
看護教育学	看護教育論とは看護学各領域の教育に共通して存在する普遍的な要素を教育学的視座から研究する学問であり、看護学生を含む看護職者個々人の発達を支援し、それを通して人々への質の高い看護の提供を目指すものである。まず看護教育論とは何かを検討するとともに看護教育制度の歴史的変遷と現在の看護教育制度の現状と課題について明らかにする。特に看護基礎教育で大きな役割を果たす臨地実習については、教師が何を考え、何を大切にして教育しているのかを知り、又、学生自身が臨地実習で直面しやすい問題をどう乗り越え学びに変えていけるかを考える機会とする。又、学生自身がどのような発達課題を持ち、教育実践や研究から生まれた看護教育論の基盤となる概念を学び、看護職として成長することは人として成長することであり自分自身について考える機会とする。
成人看護学実習Ⅰ	急激な健康の破綻や侵襲的な治療を体験する成人の患者・家族の心理・社会的側面を理解し、その状況や変化に応じて回復への支援ができる基本的な知識・技術・態度を教授する。
成人看護学実習Ⅱ	慢性病および慢性的な健康問題のある患者・家族の心理・社会的側面を理解し、健康の保持増進と健康障害の予防に向けた支援ができる基本的な知識・技術・態度を教授する。
老年看護学実習Ⅰ	「老年看護学概論」・「老年看護援助論」で学習した内容を臨地実習(介護老人福祉施設と介護老人保健施設)において実践し、福祉・保健施設で生活する高齢者の特徴とその看護に必要な知識・技術・態度を習得する。また地域における高齢者とその家族への支援と地域連携における看護師の役割ついて学習する。
老年看護学実習Ⅱ	高齢者のあらゆる側面を統合しながら、QOLを踏まえた日常生活の自立を支援できるように、医療施設および在宅・地域で生活する高齢者とその家族の全体像を把握し、個別的なケアを展開する。さらに高齢者の健康生活を支援する地域サービスシステムの理解や、地域連携における看護の特徴や役割についての理解を深める。また医療機関から在宅への移行への支援のあり方について学習する。

◇看護学科　主要科目の特長

科目	特長
小児看護学実習	小児の特徴を理解し、さまざまな健康レベルにある小児に対して、成長･発達段階をふまえた看護の方法を習得する。 小児と家族がおかれている状況を把握し、根拠に基づいて、小児がもっている力が最大限発揮できるための援助について学習する。また、他職種や地域との連携について学ぶ。
母性看護学実習	妊娠･分娩･産褥期にある女性と新生児、そのパートナーや家族に対し、対象の健康回復、および、より健康な生活にむけて、家族を含めた援助を実践するための基礎的能力を養う。 又、母児を取り巻く環境を理解し、地域との連携を学ぶ。病院や助産院で開催される両親学級等の集団指導や家庭訪問を見学し、地域の特徴や特定の発達課題に取り組む継続的な看護活動を行うための保健医療チームとしての役割を学ぶ。
精神看護学実習	精神疾患により対人関係やセルフケアが困難な状況にある対象者への看護を実践し、既習の知識･技術･態度を習得する。また施設および作業所においては心を病む人々に関連する社会資源や地域との連携を学ぶ。
在宅看護実習	健康上の課題や障害を持って生活する在宅療養者と家族を支援できるよう、その状況や特性に応じた支援の過程において、訪問看護及び居宅介護支援の実際を学び、チーム医療や他職種との協同における看護師としての援助機能等を指導する。
看護研究Ⅰ(基礎編)	看護の質を高めるための看護研究の意義と必要性について学ぶとともに、文献レビューや、研究方法、研究の過程について教授する。また、看護領域における文献を購読し、看護研究の内容や方法に関するクリティークの実際を教授する。
公衆衛生看護学実習	地域保健活動の実際を理解し、地域における保健師の活動と保健･医療･福祉との協働活動、及び地域住民に対する健康支援の在り方について、実践を通して理解する。さらに人々の関わりを通して人間として成長し、将来の地域看護活動の基盤とする。地域で生活している人々(個人･家族･集団)の健康の保持増進やQOL(生活の質)向上のための地域看護活動の実際を学ぶ。また、地域における保健師の役割と活動について学ぶ。

◇看護学科　主要科目の特長

科目	特長
国際看護学	看護は、人種や国籍を超えた普遍性をもつ専門的な職業であるため、私たちは、国境にこだわらない看護学を学ぶ必要がある。特に、グローバリゼーションがますます進展している現在、各国のできごとは、相互に影響を及ぼし合い、けっして1つの国のできごととしてはおさまらない状況にある。同じ地球に住む人間として、相互に関心を持ち、助け合うことが大切であり、地球をまもり、人類全体が健康に生きていくことへとつながっていく。このような現状を理解し、グローバルな視野を持って、世界の健康やヘルスケアを考え、そして貢献できるように国際看護学の基本知識および国際医療保健・看護活動における看護の役割について学習する。
災害看護学	現在世界中で災害が頻発していますが、医療現場の最前線で働く看護職者は災害への興味に関係なく、その現場で働く可能性があります。災害看護を行うためには、災害に関する看護独自の知識や技術を用いることや他の専門分野と協力して活動していくことが必要です。この活動を行うためにまず災害について理解し、さらに災害の各段階の特徴、人や社会への影響、災害時に特徴的な健康課題や看護ニーズを学び、そこから看護職の役割の理解を深めます。
看護研究Ⅱ（応用編）	看護の学習を通じて、看護の現象・事象における疑問や未解決・未解明部分に対して研究課題を設定し、担当教員の指導を受けながら研究（実験研究・調査研究・質的研究）を行う。看護研究Ⅰに続いて、課題解決学習の集大成として、1年間かけて研究を行い、科学的な思考や論理的表現方法を学ぶ。その過程を通して、倫理的配慮の重要性、研究フィールドを得るための方法を学びつつ、看護観を育み豊かな人間性を培う。その結果をまとめて論文を作成し発表する